

現場訪問

●社会福祉法人リデルライトホーム

福祉施設を利用する高齢者を安全に送迎するために

3月10日、社会福祉法人リデルライトホーム(熊本県熊本市)の安全運転研修会が交通安全教育センター(レインボー熊本)で開催された。

リデルライトホームは特別養護老人ホームやデイサービスセンター、グループホーム等を運営する社会福祉法人である。デイサービスセンターを利用する高齢者を自宅から送迎するために、20台の車両が稼働している。今回の研修は、車両を運転するスタッフの安全意識を向上させ、送迎時の事故を防止することが目的である。

同法人事務長の吉井 壮馬さんは研修を実施した背景を次のように話す。「高齢者の方々の自宅まで行くには、入り組んだ細い路地を通る必要があります。その際に、クルマを塀や縁石に接触させてしまったりという物損事故が起きています。」



リデルライトホーム事務長の吉井壮馬さん



インストラクターが狭いスペースでの車庫入れなどのコツを説明し、参加者はそれらに従って練習を繰り返した

軽微なものですが、放っておくと、送迎している高齢者にケガをさせてしまう重大事故につながるのではないかと考え、まず幹部職員18名に研修を受講してもらったことにしました。今後、この幹部職員が各事業所で送迎を担当するスタッフに安全運転指導を行う予定です。

この日は6名が研修に参加。午前中は動画KYT(危険予測トレーニング)を活用した座学、午後からは参加者がトレーニング車両に乗っての実技が行われた。

実技は日常点検、運転姿勢の確認の後、急ブレーキ体験となった。40km/hと60km/hで走行し、目標位置から急ブレーキをかけて停止するというもので、速度差による制動距離の違いを体験する。次に、反応ブレーキ体験。60km/hで走行中に正面にある信号を点灯させ、それを確認してから急ブレーキをかけて停止するというもの。認知してから行動するまでには反応時間がかかること、反応時間には個人差があることを確認し、安全な車間距離のとり方について参加者は理解を深めた。

続いて、車庫入れ、縦列駐車、狭路走行に参加者は取り組んだ。車庫入れと縦列駐車は、インストラクターがそれぞれ安全・確実に



写真上/クルマをバックさせながらパイルオンスラロームを行う受講者
写真下/急ブレーキ体験や反応ブレーキ体験も行われた

「ホンダの安全運転教育には、どうしたら事故を防ぐことができるか、受講者自身に考えさせるプロセスがある点を評価している。施設内でも高齢者の転倒など、事故が起きてしまうことがあります。安全運転の考え方を身につけることで、介護現場での事故防止にも応用できると期待しています。若いスタッフにもこうした研修に参加してもらって機会をつくる予定です」と、吉井さんは今後も安全運転教育に力を入れていく考えだ。



動画KYTを活用して、危険感受性を高める

※動画KYT=実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を参加者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。詳しくは以下のホームページを参照。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/

NEWS REVIEW

1 「感情コントロール教育プログラム」の実施マニュアルが完成



公益財団法人 国際交通安全学会では、運転中のストレス反応(焦り、イライラなどのネガティブ感情)に起因する事故を防止するための教育法として、「感情コントロール教育プログラム」の研究を進めてきた。4月1日、この教育プログラムの公益性を高めるために、安全運転指導者用の実施マニュアル、DVD解説

書を発表した。これは自動車教習所、企業の安全運転管理者など、運転教育を実施する方々が無償で入手可能なもので、これにより、今後はこの教育手法が広く社会に普及し、実践されていくことが期待される。

※教育プログラムの著作権は、公益財団法人国際交通安全学会にあります。資料の譲渡、加工はできませんが、使用時にクレジット(DVDタイトル画面の著作、監修)を明記すれば、どなたでも活用できます。

【問い合わせ先】
公益財団法人 国際交通安全学会
担当: 阿部 千104-0028
東京都中央区八重洲2-6-20
ホンダ八重洲ビル3階
TEL: 03-3273-7884
FAX: 03-3272-7054
ryuichiabe@iatss.or.jp

2 書籍「交通安全教育の意義と役割」が発行



本紙2010年10・11月号で紹介した香川県交通安全教育推進会議※の活動をまとめた書籍「交通安全教育の意義と役割」(勁草書房)が発行された。編著者は、同会議・評価専門委員会委員長である井原健雄氏と、同委員の正岡利朗氏。

10年間にわたる「交通安全教育に関する調査研究」の成果を踏まえ、交通安全教育の望ましいあり方と効果的な取り組みについて論じられている。

※香川県交通安全教育推進会議=香川県警察本部をはじめとする交通安全教育に関する機関・団体、学識経験者等で構成され、幼児から高齢者までの体系的な交通安全教育の推進に取り組んでいる。

TOPICS

指導者の皆さまのための指導マニュアル



●ホームページ
「実際に起きた事故事例から学ぶ自転車利用のルール」
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/>

ホンダ 高校生 交通安全 検索



指導の流れ、学習手順とねらい、指導上の留意点をまとめた指導案。実際にあった事故事例から、日頃の運転を振り返ったり、交通事故の被害者や加害者の手記を読み、事故が及ぼす影響について考えてもらえる内容になっている。



中・高校生の皆さまが参加しやすくなるためのワークシート

実際に起きた事故事例から学ぶ自転車利用のルール
中・高校生への自転車教育用教材を
ホンダホームページ内で紹介

●実際に起きた事故事例から学ぶ自転車利用のルール
ホンダでは、中・高校生の自転車による交通事故の減少を目的に、中・高校生への自転車教育用教材をホームページ内に用意している。この教材は、中学・高校の先生方や地域の指導者の

皆さまが自転車教育を実施する時に役に立っていただけるよう、指導案をまとめた「自転車教育指導マニュアル」と、指導に使用する「ワークシート」で構成。いずれもホームページからダウンロード可能である。

この他、実際の事故事例をもとに自転車に乗る際に知っておきたい交通ルールや、自転車で加害事故を起こした場合の賠償責任について紹介したパンフレット「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」もダウンロードできるようにしている。

中・高校生の皆さまが、将来に渡ってより良い交通社会人となっていたくための教材として、ご活用ください。